大老連俳句会

8月4日、大阪市立いきいきエイジンググセンターにて

鵜川　定久選

兼題　当季雑詠

遠銀河夢を語るに老ひ過ぎし　田平　康恵
登攀の鉄鎖一筋黄菅咲く　森田かおる
尾瀬沼の木道よぎる川とんぼ　中田百合子
青竹にしがみついたり土用灸　中西　寿乃
手花火の順番今もあねいもと　日柳れい子
大花火大川の水吸上げし　傳寳　弘子
いく佛想ひつつ撞く迎鐘　吉田　靜代
夫知らぬ平成生きて牽牛花　大畠　宮子
幸せは八分の一西瓜買う　加納　幸子
朝顔や手入れよろしき格子窓　松野　幸子
矢継ぎ早まなこ離せぬ遠花火　平田　文子
熟睡子と添寝の団扇休みなく　石田寿美子
大きくなれ涙せし師や敗戦日　岡本　桂子
竹簾あるかなきかの音奏で　松下登美子
あの模様浴衣なつかし母の顔　大本　和子
選者吟　鰯雲諸手を挙げて語りかけ　鵜川　定久

俳句

鵜川　定久選

明けそめし月の眉なり能役者　村上　治子
北区済業長寿会
水番の畦行く腰の曲がりやう　中村　照子
都島区ベル悠悠会
青空に高く咲き継ぐ百日紅　平尾　政子
同高倉連合
竹の春夢を結びし日が恋し　木原淳三朗
同
水際の廃船一艘初嵐　中村　幸枝
同中野連合第八
東大寺仁王の仰ぐ鰯雲　喜多　知慧
同西都島老人クラブ
吐息つきくるりと回す大南瓜　大西きよ子
福島区長生クラブ
老仲間果なきはなし走馬燈　蛭子谷みよ
同福寿会
城址てふ古りし石垣鰯雲　馬越よし秋
此花区恩貴島老友会
悩みつつどうにもならぬ秋の暮　藤岡　秋子
中央区南大江熟年クラブ
鉄筋工肩すりむけて汗ぬぐう　山田　勝彦
港区三先老人クラブ
一つ家に表札二つ蝉しぐれ　桜井　貞子
天王寺区聖和敬友会
子育ての頃の幸せ遠花火　為末　富江
淀川区神津老人クラブ
大西瓜途方にくれる老夫婦　奥野　一公
城東区東四楽友会
写経する筆の先より秋に入る　岩永登茂子
城東区成育和楽会
寡黙なる二人となりて秋暑し　石岡トキヱ
同蒲生三むつみ会
つるされし野良着三日の盆休み　大塚千庸子
東淀川区淡路寿会
老妻が桔梗一輪瓶にさし　田中貴美枝
東成区東小橋東寿会
体温より高き残暑の中に居て　栗田　きぬ
旭区菊寿会
大西瓜一病一笑厨妻　田中　昭子
同東三国老人クラブ
逆縁の弔ひきびし残暑かな　森永　栄
同三津屋三寿会
尼寺の読経掠めるかなかなや　大塚千庸子
同
大西瓜一病一笑厨妻　為末　富江
淀川区神津老人クラブ
子育ての頃の幸せ遠花火　桜井　貞子
天王寺区聖和敬友会
体温より高き残暑の中に居て　栗田　きぬ
旭区菊寿会
写経する筆の先より秋に入る　岩永登茂子
城東区成育和楽会
寡黙なる二人となりて秋暑し　石岡トキヱ
同蒲生三むつみ会
老妻が桔梗一輪瓶にさし　亀山　義久
東成区東小橋東寿会
尼寺の読経掠めるかなかなや　森永　栄
同三津屋三寿会
逆縁の弔ひきびし残暑かな　田中　昭子
同東三国老人クラブ
つるされし野良着三日の盆休み　大塚千庸子
東淀川区淡路寿会
新涼や足踏みミシンまだ使ふ　矢田　智子
城東区関目東第二互楽会
蝉時雨あの日想いて黙祷す　貝原　平人
同森之宮長寿会
朝顔の押し花赤く手を染める　廣橋　俊雄
同
戦争を知らぬ子の黙終戦日　柴原　梅子
同
眉ずみを引かねば老ゆる秋の雷　町田　冨美
鶴見区友和会
限界と想う炎暑の己が影　村田　敏子
阿倍野区晴寿会
親の恩こころは秋を深くする　辻部さと子
住之江区加賀屋福寿会
蝉時雨地球の異変気付かずに　中野　節子
同新北島つくし会
夕焼けの空の軸芯塔仰ぐ　畑井　儀人
同太陽連合きらく会
八方を開け放たれし施餓鬼寺　西澤　房子
住吉区万葉会
八十路なお母の味恋ふ茄子漬　髙橋　剛
同墨江中二寿会
鰹料理しぶきをそえる貫船川　斉藤　政憲
同清水丘喜楽会
麦秋や脳裏に残る焼野原　木村　久子
東住吉区桑津北長寿会
白萩に袂の触るる光悦寺　綿谷　弘子
平野区平野南なごみ会
心太こころの中を啜り合う　京﨑　葉子
同馬場南第二老壮会
じっくりと老いゆく吾や蝉しぐれ　白井　和子
同加寿美会
球児いましたたる汗を身にまとい　神下　きよ
同加美第二南寿クラブ
天瓜粉母には分る嬰ことば　渡部美江子
西成区萩鶴会
竹の皮にてあみたる草履のはき心地夏の素足に　山崎　洋子
ひやりさはやか　淀川区三津屋三寿会
あじさいは雨にぬれつつ公園に花色変えて咲き　山崎　義雄
乱れおり　東淀川区淡路寿会
にっこりと挨拶かわしすれちがうはて今の人どなただったか　文字　明子
同
老いし身も気力だけはと思いしが人情ドラマに　奥田　常子
目は露宿す　同井高野連合
捕虜となり時計もかねもお守りも奪われし八月　山崎　義雄
また巡り来　同東淡路第十長生会
水枯れしクリークの木立ちに小半日包囲されつつ援事を待ちき　杉山森一郎
東成区宝栄宝寿会
消防のブラスバンドの見送りにハンカチ打ち振る大阪湾クルーズ　今永　博行
同
図書館に務めいし嫁はお母さんとなれり短歌は　増田　昭子
今も止めざり　生野区第二長楽会
どこまでを生くればうれしと感ずるか母より長く生きて十五年　菊井登代子
同御幸森連合
参院選の日雨との予報に三日前冷茶を持参で日　富田美稚子
盛りを行く　同
七ヶ月やっと寝返るひ孫見つ歩める日まで生きたしと思う　水谷　定子
同弥栄クラブ
料理好きレシピを見てはためしみるすこやかな　斉藤　尚子
身に感謝しながら　旭区清水長命クラブ
冬布団の綿打直し洗い張り仕上ぐる母を傍にて　乾　壽美子
扇ぎき　同万寿会
大極殿そろそろ見ゆる頃合と電車ゆったり速度　後藤　幸子
落とせり　城東区聖賢福楽会
真夜中にふと目ざむればかじか鳴く情緒あふる　中澤　幸枝
る三朝の宿り　同エージレス関一倶楽部
雷の音に目覚めしままに浮かびくる念ひを追ひて夜は明けたり　上島多賀子
同諏訪仲良会
生れし区に帰りきて恋う幼なき日七昔経て変りたる街　児玉　将子
阿倍野区金塚連合長寿会
補聴器のこわれし日々は所在なく仙人境にこもる独り居　田中　溢恵
同
若き日の与謝野鉄幹の養家なる安養寺静かここ　西岡　清子
遠里小野に　住吉区あけぼの会
米寿なる祝にと呉れし籐椅子に朝ひととき風鈴　上田　邦彦
を聞く　同庭井庭寿会
夫と行く奄美大島空高く小雨の後に太き虹たつ　今井　敏子
本を読むそのひとときの安らぎを求めて今日も　高岡　千鶴
机に向かう　同墨江中一南寿会
君よりは先に逝けぬ老い妻は今日は整形明日は　川崎　正徳
歯科医へ　同万葉会
話好きの夫なりしがシベリアの抑留の苦労は言　野口千代子
はず逝きたり　同白鳩会
猛暑に負け倒れし我に傘寿なる夫が買物なしくれ嬉し　小田原ミツ
東住吉区南福寿会
戦時中お百度ふんだ氏神の守護いただきて奇跡　小林　英子
の生還　平野区喜連東第一老人クラブ
ベーゴマで遊んだ日々の亡き夫　坂本あや子
限りある余生酷暑に負けられぬ　平田　時子
淀川区新高新老クラブ
いちじくとぶどう貴方が好きだった　九星　勝子
東淀川区豊里むつみ会
後手に麦踏むリズム朧月　長森須恵子
同オリーブハイツ相川
蚊一匹集中力を試される　安部　勝子
同井高野第1老人クラブ
いい色に漬った梅の土用干し　岡崎　和子
同井高野第3老人クラブ
旅終へて帰りのバスは皆無口　音成くに子
同井高野第6老人クラブ
記録的酷暑猛暑に雲の峰　草野美代子
同相川老松会
蜩に起こされ今日も生きている　坂井　史郎
生野区中川東宝寿会
古カバン父が子供へ道しるべ　鈴木トヨ子
旭区三友会
追伸にわたしの本音詰めておく　萩原五月子
城東区成育和楽会
砂風呂に雁首三つ親娘嫁　伊藤　博仁
鶴見区鶴寿会
自分史を奏でる音色まだ出せぬ　辻部さと子
住之江区加賀屋福寿会
赤い糸まだありますか私のも　尾山　文子
同
湯の花にやすらぎ覚え顔のしわ　岡野　好子
同
アーチスト気取りになったカメラ好き　藤木　康司
同浜口長寿会
あの世からしっかりやれと父母の声　御厨カヅ子
住吉区明寿会
盆参り僧侶と共に回向する　楠根　敏子
同清水丘一北福寿会
砂袋涙も詰める甲子園　廣田　稔
平野区加寿美会
宇宙から見れば地球も塵一つ　大野　泰宏
同平野第二松寿会
灼熱を呼び込むように蝉の声　小津　豊子
西成区天下茶屋天寿クラブ
ベーゴマで遊んだ日々の亡き夫　坂本あや子
同

川柳

吉川　哲矢選

もう少し生きるつもりの靴を買う　平井ノブ子
東淀川区井高野第1老人クラブ
来年の約束せずに夏がゆく　浜中　春代
住吉区ときわ会
もうわてらあきまへんわとよく食べる　正雄
東住吉区田辺西一延寿会高橋
野菜高モヤシの意地が有難い　中田　誠子
東淀川区相川老松会
人生の差引きゼロがむずかしい　神夏磯典子
旭区天長会
寝たきりにならぬと決めて歩く日日　髙橋　節男
此花区伝法喜寿会
銭湯を出た涼風の懐しさ　天野　久子
東淀川区東井高野第1老人クラブ
生きてるととても思えぬ此の暑さ　長谷川　滋
鶴見区鶴見楽生会
望郷の詩にも汐の香が匂う　植野　保宏
此花区梅香老人会
物忘れへそくり隠す場所がない　小泉ひさ乃
生野区親生会
うち水とうちわ我が家の暑気ばらい　河野　勝二
都島区伸寿会
老鶯の一声聞こえそれっきり　前園　クメ
福島区鷺洲クラブ
二千円札済ませそうに額の中　佐喜眞光子
同開寿会
蝉の声暑さだぶって朝迎え　白井　厚代
同
もうアカン言いつつすする美味の酒　桐石　澄子
中央区桃谷桃寿会
アクセスの良さをひろって旅楽し　森谷　弘子
同
ふとり過ぎ金魚動きのにぶいこと　杉原　麻子
港区市岡明老会
隣から芋煮の匂いおなかへる　坂本　京子
同磯路恒楽クラブ
咲き誇る花にもいつか萎えがくる　金田　正次
浪速区長寿会
限りある余生酷暑に負けられぬ　平田　時子
淀川区新高新老クラブ
いちじくとぶどう貴方が好きだった　九星　勝子
東淀川区豊里むつみ会
後手に麦踏むリズム朧月　長森須恵子
同オリーブハイツ相川
蚊一匹集中力を試される　安部　勝子
同井高野第1老人クラブ
いい色に漬った梅の土用干し　岡崎　和子
同井高野第3老人クラブ
旅終へて帰りのバスは皆無口　音成くに子
同井高野第6老人クラブ
記録的酷暑猛暑に雲の峰　草野美代子
同相川老松会
蜩に起こされ今日も生きている　坂井　史郎
生野区中川東宝寿会
古カバン父が子供へ道しるべ　鈴木トヨ子
旭区三友会
追伸にわたしの本音詰めておく　萩原五月子
城東区成育和楽会
砂風呂に雁首三つ親娘嫁　伊藤　博仁
鶴見区鶴寿会
自分史を奏でる音色まだ出せぬ　辻部さと子
住之江区加賀屋福寿会
赤い糸まだありますか私のも　尾山　文子
同
湯の花にやすらぎ覚え顔のしわ　岡野　好子
同
アーチスト気取りになったカメラ好き　藤木　康司
同浜口長寿会
あの世からしっかりやれと父母の声　御厨カヅ子
住吉区明寿会
盆参り僧侶と共に回向する　楠根　敏子
同清水丘一北福寿会
砂袋涙も詰める甲子園　廣田　稔
平野区加寿美会
宇宙から見れば地球も塵一つ　大野　泰宏
同平野第二松寿会
灼熱を呼び込むように蝉の声　小津　豊子
西成区天下茶屋天寿クラブ
ベーゴマで遊んだ日々の亡き夫　坂本あや子
同

短歌

大西　公哉選

ギャルみこし黄色い声が弾みおり猛暑の人出天神祭り　田中喜恵子
北区菅寿会
蝉しぐれにグラウンドゴルフの道すがらパワーをもらい我もがんばる　西岡富美江
同
エイエイと竹刀を振りて汗出だす八十路過ぐる身に活を入れたり　長岡喜与吉
都島区北寿会
腹すえておかねばならぬ老いの坂おんぶにだっこの時代すぎたり　粟津美代子
此花区西九条長寿会
七十年元気にこられたこの先も感謝の笑顔たやさず生きん　小川恵美子
同高見白寿会
早朝のラジオのニュースすっきりと脳の隅までとどく物言い　貴島　敬子
西区北三寿会
何色か分らぬ程に色あせぬ母の手縫いの小さき袋　西村千恵子
港区寿成会
今日も又ほしがりませんと堪えいたりあの日あの時馬鈴薯ばかり　坂本　京子
同磯路恒楽クラブ
齢重ねいくつもの世を渡り来て平均寿命に我は近づく　上山　雅由
同弁天千寿クラブ
六甲の山の彼方に今沈む夕日を見つつ水をまきおり　大石うめの
西淀川区佃老人クラブ
日本語の「もったいない」と言ふことば世界に流れ宝となりぬ　三好　良子
同大野百島寿クラブ
誕生日八十歳かとひとり言ち鰯をあてにワインたしなむ　佐原　浄子
同姫島老人クラブ
ギャルみこし黄色い声が弾みおり猛暑の人出天神祭り　田中喜恵子
北区菅寿会
蝉しぐれにグラウンドゴルフの道すがらパワーをもらい我もがんばる　西岡富美江
同
エイエイと竹刀を振りて汗出だす八十路過ぐる身に活を入れたり　長岡喜与吉
都島区北寿会
腹すえておかねばならぬ老いの坂おんぶにだっこの時代すぎたり　粟津美代子
此花区西九条長寿会
七十年元気にこられたこの先も感謝の笑顔たやさず生きん　小川恵美子
同高見白寿会
早朝のラジオのニュースすっきりと脳の隅までとどく物言い　貴島　敬子
西区北三寿会
何色か分らぬ程に色あせぬ母の手縫いの小さき袋　西村千恵子
港区寿成会
今日も又ほしがりませんと堪えいたりあの日あの時馬鈴薯ばかり　坂本　京子
同磯路恒楽クラブ
齢重ねいくつもの世を渡り来て平均寿命に我は近づく　上山　雅由
同弁天千寿クラブ
六甲の山の彼方に今沈む夕日を見つつ水をまきおり　大石うめの
西淀川区佃老人クラブ
日本語の「もったいない」と言ふことば世界に流れ宝となりぬ　三好　良子
同大野百島寿クラブ
誕生日八十歳かとひとり言ち鰯をあてにワインたしなむ　佐原　浄子
同姫島老人クラブ

文芸

書

浪速今昔物語　市場智代子　北区中津ゆうゆうクラブ
山高月小気不出　松岡　澄子　都島区高倉第五相生クラブ
都小安人　青木美恵子　大正区恩寿会
日落楼燈影　水野　保明　天王寺区大江クラブ楽友
新しい一日を人生を晴れやかにと　田中　松子　東淀川区井高野連合
空色勾玉　東　代志美　同
孤雲心浩然　草野美代子　東淀川区相川老松会
六根清浄　岡島　衛　生野区東中川宝寿会
自誡　出原　廣行　城東区森之宮長寿会
覧鏡喜光　細川　康彦　同親和会
百事諧　木原　あい　同エージレス関一倶楽部
清水寒山拾得古寺鐘　今田　健二　同西淡路日之出友愛クラブ
洗心洞跡　惣元　幸吉　同東淡路第十二長生会
粉骨砕身　加藤富美子　鶴見区茨田大宮喜楽会
感謝御霊五十巻達成　壱東　武雄　同
友愛多幸の里　龍野　幸子　阿倍野区高松連合天寿会
茶畑永日香　肇　住吉区遠里小野第2十六夜クラブ森田
切磋琢磨　石川トメノ　西成区南津守南寿会
江月照松風吹　織部　和彦　同天下茶屋天寿クラブ

大阪市広報ラジオ番組
馬場章夫の〈新〉大阪大発見
毎日放送ラジオ（1179ＫＨｚ）
毎週日曜日　午前８時～８時30分
まち歩きの達人、馬場章夫さんが現場取材を交え大阪のまちをレポート！

９月５日　救急安心センターを訪ねて
９月12日　大坂夏の陣の悲劇
９月19日　造船所跡地でアートを大発見！
９月26日　水辺のおもしろさを大発見！

話せる。頼れる。生活バンク。　JAバンク大阪（JA/信連）　http://www.jabankosaka.or.jp/ja

大阪人の誇り　第四回

東町奉行所址

江戸時代、大坂の町方の民政は、東西両奉行が担当し、両町奉行は交替で大坂三郷全体を支配していました。奉行は老中の直轄で、旗本（千五百石高）が任ぜられ、一、二年で交替します。この両町奉行所の配下には東西それぞれ与力三十騎が配属されていました。与力は高二百石、実収八十石、屋敷地は五百坪でした。当時、江戸の昌平黌（しょうへいこう）儒官の禄高がやはり二百石であったことから考えると、この町奉行与力の待遇は決して悪いものではなく、民政の実権は与力にあったといわれています。

現在、大手前合同庁舎のある場所に「東町奉行所址」の石碑があります。

不正を正し、弱きを助ける

寛政五年（一七九三）大塩平八郎は、大坂東町奉行所の与力の家に生まれました。文武によく励み、学問は権威的で形式的な朱子学に飽き足らず陽明学を信奉しました。大塩は、三十代前半には陽明学者として既に家をなし、役宅に私塾「洗心洞」を開きました。

与力としての初出仕は十代半ばで、定町廻役をつとめました。これは、盗賊、乱暴者を捕えるのが主な役目でした。大塩は、学問の実践を尊ぶ陽明学で「事上磨煉」の思想を得ることで与力としての職務に確信を持ち、これに打ち込みました。そして在職中の幾つかの功績により名与力とうたわれました。その才腕は江戸の幕閣に登用される話が出たことからもうかがわれます。三十八歳の時には、与力として頂点に上り詰めましたが、早々と隠居してしまいました。

天保八年（八三七）大塩は、打ち続く天保飢饉のさなか、飢餓人、餓死人を目前に、大坂町奉行諸役人とそれと結託した特権大豪商の飢饉対策に激怒し、奸吏・奸商を誅伐すべく兵を挙げました。乱は一日で終わり、大塩は自刃しました。

そもそも陽明学は「反乱の哲学」ではありません。治世の学に熱烈に傾注した大塩が、幕政への批判から兵を挙げたことに今も疑問は残ります。これを幕府は「反賊」としましたが、民衆は最も道義的であると大塩を評価しました。

「洗心洞跡」の碑は北区天満二丁目の造幣局構内にあります。

JAは大阪とともに歩む、信頼バンクです
年金のお受け取りはJAで

大阪府全域をカバーするJAのネットワーク

JA大阪市	TEL.06-6793-8701	JA大阪中河内	TEL.072-924-6647	JAいずみの	TEL.072-439-2386
JAたかつき	TEL.072-671-5421	JA北河内	TEL.072-844-1353	JAグリーン大阪	TEL.072-967-1139
JA大阪泉州	TEL.072-468-2633	JA北大阪	TEL.06-6877-5145	JA九個荘	TEL.072-828-4441
JA大阪南	TEL.0721-25-5523	JA大阪北部	TEL.072-725-0752	JA大阪東部	TEL.072-878-1231
JA堺市	TEL.072-278-5011	JA茨木市	TEL.072-627-7763		

JA は 農協 の愛称です。